

受験番号					
------	--	--	--	--	--

〈博士前期課程〉

専門（共通）

問題1

【出題の意図】

看護理論についての基本的知識を問う。

	①	②	③	④	⑤
関連する理論	C	D	E	B	A

参考文献

南江堂 看護学テキスト Nice 看護理論 看護理論 21 の理解と実践への応用 改訂第3版
筒井真優美（編）. 看護理論化の業績と理論評価 医学書院 2020

問題2

【出題の意図】

看護における Evidence-based practice (EBP) の代表的な定義として、「最適なケアの決定のため、利用可能な最良のエビデンスと、看護の臨床的専門技能、そして患者・家族の選択の三者を結合するプロセスである」と紹介されている。EBPについての基本的知識を問う。

②

参考文献：

- 松岡千代. EBP (evidence-based practice) の概念とその実行 (implementation) に向けた方略. 2010. 看護研究, 43(3), 178-191.
 Sackett DL, Rosenberg WM, Gray JA, Haynes RB, Richardson WS. Evidence based medicine: what it is and what it isn't. BMJ. 1996 Jan 13;312(7023):71-2.

受験番号					
------	--	--	--	--	--

2026年度 大阪医科大学大学院
看護学研究科入学者選抜学力検査 解答例

問題3

【出題の意図】

文献レビューは、自身の研究テーマに関連する先行研究や学術的文献を体系的に収集・整理・分析し、既存の知識の流れやギャップを明らかにするなど重要な目的を有しており、その基本的な知識を問う。

【解答例】

- ①テーマに関する幅広い知識を得る
 - ①-1 既存の知識を得て、先行研究の整理を行うことができる
 - ①-2 知識のギャップや未解決の課題の明確化を行い、今後の研究の方向性を示す
- ②適切な研究方法を知る
 - ②-1 テーマに関する研究方法を知ることができる
 - ③効果あるケアの方法を知ることができる
 - ④実施した看護ケアの結果や研究方法の解釈に活用することができる
 - ⑤相談や助言をもらえる専門家を知ることができる

参考文献：医学書院 系統看護学講座 看護研究 2025年版

問題4

【出題の意図】

認知症の本人を中心とした支援・活動における共通基盤としてアドボカシーがある。認知症になっても有する力を最大限活かし、日常生活に関して自らの意思に基づいた尊厳のある生活を送ることができるよう、認知機能の低下を考慮した意思決定支援が重要であり、看護師のアドボケイトとしての役割についての基本的な知識を問う。

【解答例】

- ・(認知機能低下に伴う影響) 認知症の方は認知症の進行に伴う認知機能の低下のため、意思形成や意思表明が難しくなる。
- ・(目的) 認知症の本人の「その人らしさ」を尊重し、自己決定権を守り尊厳を持った生活を支えていくこと
- ・(上記のため看護師によるアドボカシーとして) このような状況において、看護師はアドボケイトの役割を果たすことが必要である。

参考文献：

厚生労働省. 認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン, 2018
医学書院. 系統看護学講座 看護倫理, 2025年版

受験番号					
------	--	--	--	--	--

2026年度 大阪医科大学大学院
看護学研究科入学者選抜学力検査 解答例

問題5

【出題の意図】

看護理論を用いて看護における現象を捉えることは、科学的根拠に基づいた看護実践や複雑な看護課題の解決のために重要である。本問題では、ドロセア・E. オレムの看護理を用いてアセスメントし、看護支援を導き出すために必要となる基本的知識および看護実践への応用力を問う。

【1】解答例】

(普遍的セルフケア要件)

- ・<活動と休息のバランスを保つこと>について、夫の夜間の排泄介助による睡眠障害が生じている状態であることから、休息の時間を十分に確保すること。
- ・<正常性の推進(正常希求)>について、薬の服薬を「きちんと飲むのは無理」と述べているが、心不全の悪化を予防したいという気力を回復すること。

(発達的セルフケア要件)

- ・夫の介護が自らの生活に影響を及ぼしている可能性を認識し、介護負担を調整する。
- ・65歳という年齢から老化に伴う健康上の変化に対応するため、健康的な生活習慣を維持すること。
- ・社会的役割の変化が生じることが想定されることから、経済的な安定を確保すること

(健康逸脱セルフケア要件)

- ・心不全および、高血圧、糖尿病について疾患や治療についての知識を得て、服薬の重要性や自己管理の必要性について理解すること。
- ・夫の介護をしながら、心不全および、高血圧、糖尿病について必要な服薬の継続や日常生活を管理するために必要な調整を行うこと
- ・心不全および、高血圧、糖尿病について症状増悪のサインをモニタリングし、適切に対処すること

【2】解答例】

1	(セルフケアを阻害する要因) 心不全および、高血圧、糖尿病を自己管理に必要な知識の不足 (具体的な看護支援) ・疾患や治療、必要な日常生活管理についてAさんの理解の状況に合わせて説明する。 ・Aさんがいつでも見返せるように重要な事項を記載したパンフレットを渡す。 ・Aさんが「無理だ」と思わず取り組めそうなことを一緒に考える。
2	(セルフケアを阻害する要因) 夫の介護で夜も眠れずおらず疲労していること

受 驗 番 号					
------------	--	--	--	--	--

2026 年度 大阪医科大学大学院
看護学研究科入学者選抜学力検査 解答例

	(具体的な看護支援)
	<ul style="list-style-type: none">・ Aさんが夫の介護を頑張っていることをねぎらう。・ Aさん自身に疲れが溜まると自分の疾患に対する自己管理が継続できない状況になることを一緒に振り返る。・ どのようにしたら夫の介護をしながら確実な服薬や必要な生活上の注意点を守れるかについて話し合う。・ 夫の介護のスケジュールに服薬スケジュールを組み入れることや、内服薬の一包化など簡便に服薬できるしくみの活用など具体的な方法を検討する。

参考文献 :

ドロセア E. オレム (著), 小野寺社紀 (訳). オレム看護論 看護実践における基本概念 第4版.
医学書院, 2020.

受験番号					
------	--	--	--	--	--

2026年度 大阪医科大学大学院
看護学研究科入学者選抜学力検査 解答例

問題6

【出題の意図】

成人は子どもとは異なる学習スタイルや動機を持つため、子どもを対象とした学習（ペタゴジー）とは異なる成人を対象とした学習（アンドラゴジー）についての基礎的理解を問う。

【解答例】

	特徴	意義
1	自律的な学習	アンドラゴジーでは、学習者主導で、自律的に学習を進めようとする存在とみなされる。成人は自分で学びたいことを、学びたい時に学ぼうとする。成人がこうして学びの場に参加するのには明確な目的が生じた時であることが多いとされ、自らが課題を自覚し、学習を実感した時に、学習が意欲的、能動的に始まるとされる。
2	経験をいかした学習	成人の学習の過程では、それまでの人生で積み重ねてきた経験が、学習内容をより深く理解するための助けになり得る。新たに学んだ内容を、すでに知っている知識や過去に体験した事象と結びつけて理解することにより、その内容がより深く内面化される。
3	学習の即時性	新たな学びが過去の体験と結びつき内面化しやすいことから、学んだことをすぐに生活や仕事に活かしていくことができる。
4	自己決定的な学習	学問的な知識を体系的に学ぶというより、自分の必要性に即してみずから内容と計画を決める自己決定的な学び方が向いている。より主体的、能動的な学習が可能となる。

参考文献

医学書院 系統看護学講座 基礎分野 教育学, 240~242, 2025

Malcom S. Knowles (著), 堀薫夫・三輪建二 (訳). 成人教育の現代的実践—ペタゴジーからアンドラゴジーへ— 凤書房, 2002